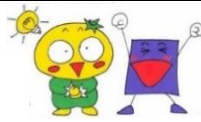




学校通信

河内校



令和3年11月18日

第14号 文責 宮崎

主体的に考え行動する河内っ子
「笑顔・元気・やる気」

熊本市学校環境緑化コンクール

11月17日(水)に、「第57回熊本市学校環境緑化コンクール」において、熊本市教育委員会賞を受賞し、表彰式に参加してきました。本校では、これまでも環境教育、学校緑化に積極的に取り組んできました。これまでの地道な取り組みと子どもたちの活動の様子を評価していただいたことを大変うれしく思います。特に本年度は、「人権の花運動」該当校となり、種子から子どもたちの手で育てる活動を通して、いのちを大切に作る心を育む教育に取り組んだことが認められたようです。今後も、環境教育と学校緑化を河内小の宝として推進していきたいと思えます。なお、環境緑化担当者として、徳永由美子先生と橋本雄二先生の活躍があつての受賞であったことも申し添えます。



小中連携の取組①

小中一貫教育校として2年目を迎えています。コロナの影響を受け、予定していた行事や活動が中止となる中、特色ある教育活動ができずに少し残念な気持ちでいます。しかし、9年間の子どもの育ちを見通して、小中学校の教職員による情報交換や取り組みの確認は日常的に行っていくつもりです。さて、先月の情報交換会で話題になったことから2点お知らせします。

①タブレットの利用方法について

学習の場面でタブレットを活用した授業が当たり前になってきました。子どもたちは操作を覚えることが達者で驚いています。それに伴い、不適切な利用の仕方をしている子どももいるようです。ご存じのように、市の予算でタブレットを全児童に配付する目的は、子どもの学習に活用し学力の向上に資するためです。今一度適切な利用方法について、子どもたちに考えさせたいと思えます。ご家庭においては、保護者の皆様の責任の下で、子どもたちに考えさせていただきようお願いします。

②話す力を高めよう

中学生になっても、分からない時や困ったときに自分の気持ちを先生や友だちに伝えられない子どもがいます。様々な原因が考えられるでしょうが、話せる環境づくりと話す力を高める取組が必要だと思えます。解決の一つには、子どもたちが発言する場数を増やして話すことに慣れさせることが大事だと考えます。日常の授業を中心として、子どもたちの発言の機会を増やすよう取り組みたいと思えます。また、子どもたちが本当に困ったときは、全ての教職員、保護者がその受け皿となりSOSを発信できるように、良好な関係をつくっておく必要があります。担任だけでなく全職員で全児童に関わる河内小を目指します。

【昨年度行われた保護者アンケート結果より】

Q、小中一貫教育の推進を通して学校教育に期待する内容は何ですか。

1位 小・中学校間のなめらかな接続

2位 学力の向上、学習意欲の向上

・保護者の皆様の期待に沿った取組を推進していきます。